

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
専門学校 日本自動車大学校	平成1年3月30日	矢部 明	〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
学校法人 日栄学園	平成1年3月30日	理事長 矢部 明	〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																											
工業	自動車産業専門課程	自動車研究科 (1級自動車整備士コース)	—	平成18年文部科学省 告示第88号																																											
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備及び産業について専門学校教育法を行い、その高等な理論と実践的な応用を教授ならびに研究し、もって交通産業の健全な発展を帰することを目的とする。																																														
認定年月日	平成29年 2月 28日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
4 年	昼間	4952	1522		3430																																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		単位時間																																								
160 人	207人	9人	51 人	8 人	59 人																																										
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科目、実習科目の履修成績を認定するための 各科目別に評価を行う。 優(100～90点) 良(89～70点) 可(69～60点) 不可(59点以下)																																											
長期休み	■夏 季: 8月1日～8月31日 ■冬 季: 12月23日～1月7日 ■春 季: 3月25日～4月4日		卒業・進級 条件	学科目及び実習科目のそれぞれの出席率、通常試験及び期末 試験又は口述試験、論文、レポートの総合評価をもって決定す る。出席率は各学科・実習時間の90%以上でなければならない。																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席する際の電話連絡、出欠カード提出の指導、無断欠席の 場合は、担任から電話による欠席理由の確認。状況に応じ個 人面談及び家庭訪問により保護者との三者面談等を実施		課外活動	■課外活動の種類 人とするまのテクノロジー展、設計製造ソリューション展、 モーターショー、オートサロン、軽ダート大会、体育祭、国内 研修旅行、海外研修旅行、献血など																																											
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動 車整備工場、損害保険会社他 ■就職指導内容 キャリア支援室を設置し学生への就職先企業の紹介及び各 種相談に対応している。また、面接指導並びに内定後のフォ ローを行っている。 ■卒業生数 58 人 ■就職希望者数 58 人 ■就職者数 58 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等)	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td><td>②</td><td>58人</td><td>58人</td></tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td><td>②</td><td>58人</td><td>58人</td></tr> <tr> <td>損害保険募集人資格一般試験</td><td>③</td><td>40人</td><td>36人</td></tr> <tr> <td>小型中古自動車査定士</td><td>③</td><td>35人</td><td>32人</td></tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td><td>③</td><td>52人</td><td>16人</td></tr> <tr> <td>職業訓練指導員</td><td>③</td><td>55人</td><td>28人</td></tr> <tr> <td>日商簿記検定三級</td><td>③</td><td>7人</td><td>3人</td></tr> <tr> <td>運行管理者(貨物)</td><td>②</td><td>7人</td><td>5人</td></tr> <tr> <td>三級販売士</td><td>③</td><td>7人</td><td>3人</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第15回全日本学生フォーミュラ大会 総合5位(ICV総合4 位)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	58人	58人	二級ジーゼル自動車整備士	②	58人	58人	損害保険募集人資格一般試験	③	40人	36人	小型中古自動車査定士	③	35人	32人	第二種電気工事士	③	52人	16人	職業訓練指導員	③	55人	28人	日商簿記検定三級	③	7人	3人	運行管理者(貨物)	②	7人	5人	三級販売士	③	7人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																												
二級ガソリン自動車整備士	②	58人	58人																																												
二級ジーゼル自動車整備士	②	58人	58人																																												
損害保険募集人資格一般試験	③	40人	36人																																												
小型中古自動車査定士	③	35人	32人																																												
第二種電気工事士	③	52人	16人																																												
職業訓練指導員	③	55人	28人																																												
日商簿記検定三級	③	7人	3人																																												
運行管理者(貨物)	②	7人	5人																																												
三級販売士	③	7人	3人																																												
中途退学 の現状	■中途退学者 9名 4.07% 平成29年4月1日時点において、在学者 221名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 212名 (平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 目的意識の欠如、経済的理由、体調不良など ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施 することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を開催している。																																														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 無 1年次成績優秀者に対し、2年次の授業料を減免する特待生制度を設置 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 有 無 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																														
当該学科の ホームページ URL	URL https://www.nats.ac.jp																																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他の」欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩に技術が進歩する自動車産業界において、その技術的進歩に追随する、或いは先導的な指導を学生達に行うことは、実践教育を行う専門課程の責務であり、本校の当課程においては企業と連携し、教育カリキュラムの編成および授業内容の改善などの意見を交換し、フィードバックを加え続ける事により、常に企業ニーズに沿った授業内容の構築を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業や業界団体等と連携した教育課程編成委員会を設置し、委員会からの意見、提言等を活用または参考にし、学校長並びに各科の担当教員らで構成されるカリキュラム編成委員会により教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢部 明	日本自動車大学校 学校長	2018年4月1日～2020年3月31日	
林 英伸	日本自動車大学校 学校長代理	2018年4月1日～2020年3月31日	
宮本 賢次	株式会社千葉マツダ 管理本部総務グループ課長	2018年4月1日～2020年3月31日	③
三平 真司	有限会社三平商会 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
矢城 勝彦	千葉県自動車車体整備組合 副理事長	2018年4月1日～2020年3月31日	①
岩立 一郎	株式会社岩立モータース羽鳥 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
高橋 正裕	JICA技術顧問	2018年4月1日～2020年3月31日	②
早川 靖洋	日本自動車大学校 教育部 教頭	2018年4月1日～2020年3月31日	
矢部 光範	日本自動車大学校 NEMO推進事業部 部長	2018年4月1日～2020年3月31日	
鵜澤 滋人	日本自動車大学校 事務局長代理	2018年3月1日～2020年2月29日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催 3月中旬 8月上旬

(開催日時)

第1回 平成30年3月16日 13:00～14:00

第2回 平成30年8月10日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会からの意見、提言を元に最新電子制御技術搭載のガソリンエンジン車両を用い故障診断技術の向上を図った。また、ディーゼルエンジン搭載車両を用い、クリーンディーゼルエンジンの制御技術の修得、排気ガスの浄化方法の修得、現車確認などの内容を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

販売直後の車両なども取り扱う機会が多い一般企業との連携を行い、実習、実技、演習などを行う事により、先進技術の早い修得や今後導入される可能性がある技術などについても知見を得させ、より一層即戦力たる人材育成に取り組むことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携した企業と事前に実習内容などを協議し、授業を行う。また授業終了後に企業の担当講師と連携し学生の修得状況を調査すると共に、学修成果の評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ガソリン自動車実習	電子制御装置の概要習得及びスキャンツール活用による故障診断の概要習得	株式会社千葉マツダ
ジーゼル自動車実習	ジーゼルエンジンの作動、燃料装置、電子制御装置等の構造及び作動を理解する。	いすゞ自動車首都圏株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員の専攻分野に対する実務的、技術的な研鑽は、実践教育を担う上で欠かせない要素である。よって提携先企業または外部団体などを通じ、常に最新の技術に触れ教員の技術的向上を図る研修を計画的に実施する。一方、技術面のみならずそれらを伝える教育技法の修得も教員としては必須であり、更に近年の青少年の気質や行動様式を理解した上での指導力の向上も求められる。よってこれらの研修の機会も併せて構築し、教員の資質の向上に努めることを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業による新型環境ディーゼル・エンジンの技術講習会に参加させて頂き教職員を派遣、同内容を他の職員にもフィードバック講習を行った。

②指導力の修得・向上のための研修等

提携先大学との連携により「カウンセリングの基礎と手法」と題した教職員を対象とした講座を開催し、受講した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業及び各自動車メーカー主催の最新技術に関する技術研修会。また、外部団体主催の技術研修会に教員を派遣する。その後他の教員にフィードバックを行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

千葉県専修学校各種学校協会主催の新人教員研修会、中堅教員研修会に教職員を派遣する。その後他の教員へのフィードバックを行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業や卒業生、地域住民等が参画した学校関係者評価委員会を設置し、学校評価ガイドラインに沿って行う自己評価をベースに、教育活動を始め学校運営に関する取り組みや改善方策を評価検証し、教育活動全般の質的向上を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、育成人材像の明確化と周知、業界のニーズや将来構想への取組
(2) 学校運営	目的、運営方針、コンプライアンスに則った事業計画の策定と実行
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成と実行、適正な人員配置と成績評価
(4) 学修成果	資格取得率、就職率、退学率等の評価
(5) 学生支援	就職や進路、経済環境や健康管理を行う組織体系
(6) 教育環境	施設・設備の保守点検並びに更新状況や防災に関する体制について
(7) 学生の受入れ募集	定員の状況と入試体系の明確化、学納金額の適性について
(8) 財務	財政基盤や予算、収支計画、監査体制の適性について
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守や自己評価の実施等
(10) 社会貢献・地域貢献	施設を活用した地域貢献や人材を活用した講座などの貢献について
(11) 国際交流	留学生の受入体制や学習成果の国内外への貢献について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会開催後、その意見を元に後援会企業等と連携し、最新技術を修得する機会を設けるなど実践的な教育内容の構築に努めた。また、地域社会との連携を深めより学校運営を強固な物とするため地域への奉仕活動にも力を入れた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 浩明	千葉トヨペット株式会社 社員相談室 室長	2018年4月1日～2020年3月31日	関連業界
布留川 厚	横芝敬愛高等学校 校長	2018年4月1日～2020年3月31日	高等学校
竹林 克夫	千葉県関税会連合会 会長	2018年4月1日～2020年3月31日	地域住民
西谷 賢一	有限会社西谷自動車整備工場 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	保護者
成瀬 健吾	自動車整備科 3期卒業生	2018年4月1日～2020年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nats.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携し、教育活動及び学校運営の一層の充実と質的向上を図るため、これらの状況や情報を恒常的に提供、公開していく事を基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページによる校訓、教育方針(到達目標)等の公表
(2) 各学科等の教育	各学科の授業科目、概要、時間数などのホームページ、パンフレットによる公表
(3) 教職員	教職員の人数等をHPにて公表
(4) キャリア教育・実践的職業教育	取得可能資格をホームページに記載
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事や課外授業の取り組み等を、ホームページに記載
(6) 学生の生活支援	ホームページ、募集要項による奨学金の公表及び学生寮などの斡旋
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ、募集要項による納付金及び奨学金制度の明確な記載と
(8) 学校の財務	ホームページによる財務諸表の公表
(9) 学校評価	ホームページによる自己点検評価に基づく学校関係者評価の公表
(10) 国際連携の状況	JICAとの連携による途上国民の技術教育や協力隊員の養成支援
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.nats.ac.jp>

授業科目等の概要

(自動車産業専門課程自動車研究科 1級コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車工学	自動車の各装置の概要、機械要素、熱力学など自動車に係わる基礎を広範囲に学ぶ入門編	1前	24		○			○		○		
○			自動車材料・燃料・油脂	自動車に使用される材料・燃料・油脂類の特性を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			自動車整備・測定機器	整備作業機器、測定機器の構造取扱を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン1	ガソリンエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1前	84		○			○		○		
○			自動車シャシ1	動力伝達、懸架、舵取り、制動、走行の各装置ごとの種類・構造・特性、点検整備方法を学ぶ	1前	84		○			○		○		
○			自動車製図	製図の基礎知識、読図、作図	1前	20		○			○		○		
○			工作・機械実習	手仕上げ工作、機械工作	1前	44				○	○		○		
○			測定実習	基本測定作業	1前	44				○	○		○		
○			ガソリン自動車実習1	ガソリンエンジン（四輪、二輪）分解・構造確認、シャシ（サスペンション、ブレーキ）の分解・構造確認及び点検整備法、電子制御装置概要確認、故障診断基礎	1前	156				○	○		○		○
○			自動車シャシ実習	動力伝達（クラッチ、ドライブシャフト、ディファレンシャル等）の分解・構造確認及び点検方法	1前	104				○	○		○		
○			一般教養	社会人として必要な一般常識	1・2通	40		○			○		○	○	

○		危険物取扱実務	可燃性危険物の性質及び正しい取扱方法	1 前	20		○			○		○		
○		有機溶剤取扱実務	有機溶剤の正しい取扱方法	1 前	16		○			○			外部	
○		ビジネス能力	仕事の基本とビジネスマナーの習得	1 前	40		○			○		○		
○		自動車電気電子	自動車電子部品の構造・理論	1 後	40		○			○		○		
○		自動車電装品 1	自動車に使用される電気装置（バッテリー、オルタネータ、スタータ、点火装置など）の構造・特性、点検整備方法について学ぶ	1 後	60		○			○		○		
○		ジーゼルエンジン 1	ジーゼルエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1 後	60		○			○		○		
○		自動車力学・ 数学 1	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	1 後	30		○			○		○		
○		自動車関係法規	自動車にかかわる法律を理解する	1 後	26		○			○		○		
○		自動車検査機器	自動車検査作業に用いられる検査機器の種類や構造を学ぶ	1 後	20		○			○		○		
○		ジーゼル自動車 実習 1	ジーゼルエンジン搭載車両（小型）のエンジン、シャシのオーバーホール作業、電子制御装置の概要確認	1 後	116					○	○		○	○
○		点検検査故障 探求実習 1	法定点検（12ヶ月）、検査作業の実施	1 後	212					○	○		○	
○		ガソリンエンジン 2	ガソリンエンジンの構造、電子制御装置の構造、制御方法、故障探求方法を学ぶ	2 前	46		○			○		○		
○		自動車電装品 2	自動車に使用される電気電子装置の構造・機能、車内ネットワークの構造機能、外部診断器の特性について学ぶ	2 前	40		○			○		○		
○		ジーゼルエンジン 2	ジーゼルエンジンの各装置の構造・特性、電子制御式高圧燃料噴射システムの構造・特性を学ぶ	2 前	40		○			○		○		

○		二輪自動車	二輪自動車の構造、整備、故障探求	2 前	40		○			○		○		
○		自動車と環境 問題	地球環境問題から自動車の公害対策を学ぶ	2 前	20		○			○		○		
○		自動車検査	自動車検査作業の一連の流れや書類作成方法を学ぶ	2 前	26		○			○		○		
○		損害保険実務	損害保険の役割及び自動車事故における責任と賠償の役割について学ぶ	2 前	20		○			○		○		
○		ガソリン自動車 実習 2	電子制御システムの研究、オートマティク トランスミッション、二輪車エンジン・ シャシのオーバーホール作業	2 前	216					○	○		○	
○		電装品実習	HVの高圧回路取扱い及び点検整備方法を 学ぶ	2 前	80					○	○		○	
○		専攻専科実習	ガソリンエンジンの性能向上、板金塗装、 ウィンドウリペア、ボディ塗膜研磨などか ら選択でその手法を学ぶ	2 前	88					○	○		○	
○		自動車シャシ 2	オートマティクトランスミッション、C V T、各電子制御装置（サスペンション、 ブレーキ、ステアリング装置）などの構造・ 特性を学ぶ	2 後	46		○			○			○	
○		自動車力学・ 数学 2	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	2 後	10		○			○			○	
○		点検検査故障 探求実習 2	法定点検（24ヶ月）、検査作業の実施	2 後	204					○	○		○	
○		工場現場実習	各整備工場での実務を学ぶ	2 後	40					○	△	○		○ △
○		ジーゼル自動 車実習 2	ジーゼルエンジン搭載車（大型）の取扱 い、電制御燃料噴射システムの構造確認	2 後	216					○	○		○	
○		自動車工学	自動車について、2年次までに学んだ内容 に論理的な上積みを行いながら自動車整備 技術に携わる新機構について、構造、作動 及び整備作業方法などの知識を習得する。	3 前	30	3	○			○			○	
	○	コンピュータ 基礎工学	現在車に使われているコンピュータ（電子 制御装置）に対応するため、基礎的なアナ ログ回路からデジタル回路及びマイクロコ ンピュータまでの作動・原理について理解 することを目的とする。	3 前	30	3	○			○			○	

○	材料工学	機械設計に必要不可欠な、材料・構造・加工上からの強度計算手法を修得する。	3 前	30	3	○			○	○		
○	製図	寸法公差や加工法、表面荒さや各種製図記号に対する知識の修得と、実際に製作する上で必要な寸法の記入方などについての作図技術の修得	3 後	30	3	○			○	○		
○	内燃機関工学	自動車用エンジンに使用される内燃機関に対し、その熱力学的な特徴からエンジンの出力・効率などの問題点について把握、更に新技術に対する知識を深める。	3 前	30	3	○			○	○		
○	シャシ整備工学	自動車シャシ関連について、2年次までに学んだ内容の論理的な上積みを行いながら、各種制御装置の故障診断の進め方や振動・騒音に関する診断能力の基礎知識を修得する。	3 前	30	3	○			○	○		
○	電子回路	電気回路との関連付けを行い、回路計算を含む電子回路の理解をする。	3 後	30	3	○			○	○		
○	コンピュータ工学	電子制御式燃料噴射装置などに使われているCAN通信システムについて学び、その点検方法及び故障診断技術を修得する。また、CPUの基本構成やプログラミングについて学ぶ。	3 後	30	3	○			○	○		
○	整備診断	整備作業に伴う、問診などに必要な基本知識を学び、さらに応酬話法などの応対への技術を身に付ける。	3 前	30	3	○			○	○		
○	新世代自動車システム工学	ハイブリッド車や新世代の自動車として期待される電気自動車の構造・機能や点検整備・故障診断手法を系統的に学び、新世代の自動車技術に対応できる知識を修得する。	3 後	30	3	○			○	○		
○	環境経済学	環境保全の仕組みを理解することにより、整備士として実社会での作業環境等の改善に取り組む知識を身に付け、さらに社会人としての教養を身に付け、地球環境に対する問題を正しく理解する。	3 前	30	3	○			○	○		
○	整備・測定・検査機器	自動車整備に関わる整備測定検査機器について取り扱い方法や活用法、更には管理保管についての知識を修得する。	3 後	30	3	○			○	○		
○	自動車検査	自動車の整備に関わる確認のための、検査方法等についての知識を身に付ける。	3 前	10	1	○			○	○		
○	自動車関連法規	道路運送車両法などの自動車関連法規について、2年次までに学んだ知識をもとに、さらに理解を深める。	3 前	20	2	○			○	○		
○	経営戦略	企業が永遠に成長し、発展していくためには、どのような基礎の上に組織が作られ、管理していくかなどを理解する。また、企業と連携し、販売や営業活動に関する実務や知識を修得する。また、新型車の構造や作動、整備方法なども修得する。	3・4 通	40	4	○			○		○	

○		商業ビジネス	日常的に使用する印鑑や領収書の常識や意味合い、手形・小切手の仕組みなど、実社会に出てから直ぐにでも必要と思われる実務や知識を修得する。	3 前	20	2	○		○	○			
○		教育学概論	教育とはなにか、専門学校とはいかなる学校であるのか。その教育理念や方法論を理解することにより、将来の企業内育成担当者としての資質・素養を醸成させる。	3 前	20	2	○		○	○			
○		自動車損害保険	交通事故を起こした損害車両の損害調査の手法を学び、適切な事故車見積もりの知識や技術を修得する。	3 後	30	3	○		○	○			
○		職業訓練指導員	企業内訓練等に必要の実務知識を修得するとともに、その教科指導方法について理解する。さらにこの資格を取得することにより、個人の付加価値の向上及び充実を図る。	3 前	30	3	○		○	○			
○		ソーシャル検定 上級	ソーシャル検定中級の知識をもとに、更に社会人としての知識と行動の必要性について深く理解し、実際に活用できるように、意識を高めることを目標とする。	3 前	40	4	○		○	○			
○		技術英語	自動車整備において使用される部品名称、メカニカル用語等に数多くあるカタカナ日本語英語の正しい英語表現法を学び、外国車の整備マニュアル等の内容が概ね理解できるようにする。	3 後	30	3	○		○	○			
○		機械加工・工作実習	CADを用いた車両・部品設計を行うにあたり、実際に工作機械等を活用した製作を行い、設計から生産までの連鎖性と生産性を考慮した設計力を養成する。	3 前	30	3			○	○	○		
	○	エンジン性能試験	各種条件下におけるエンジンの性能及び特性について、内燃機関総合性能試験装置を用い具体的及び統計的に試験を行い、エンジンの特性をより正確に理解をする。	3 後	30	3			○	○	○		
	○	小型エンジン整備実務	2年次までに学んだことをベースに、ECUの自己診断機能を活用し、オシロスコープ等を使用して系統的に点検確認しながら不具合箇所を限定し、発見していくという論理実践を通して高度な故障診断能力を身に付ける。	3 前	130	13			○	○	○		
	○	大型エンジン整備実務	大型車両のエンジンに使用されている電子ユニットの故障に対応するため、基本的な電気回路の作動や回路の読み方を学習し、故障探求に必要な技術を修得する。	3 後	120	12			○	○	○		
	○	シャシ点検故障探求実務	自動車に使用される電子ユニットの故障に対応するため、基本的な電気回路の作動や回路図の読み方を修得し、更に高度な電装品の作動について現車を使いながら確認する。また、走行中に発生する音や振動について、理論的に故障原因の追求方を理解する。	3 前後	220	22			○	○	○		
○		自動車電装整備実務	交流回路の基本や配線設計における保安知識、電気工事に必要な基本作業技術などを身に付けることにより、電気自動車に使用される制御システムの理解を深める基礎とする。	3 前	90	9			○	○	○		
	○	自動車コンピュータ整備実務	現車に搭載されているECUのプログラム解析を行い、制御方法とデータ部の役割を理解する。更に、CAN通信システムについて、そのシステムの構成及び点検、診断手法を理解する。	3 後	100	10			○	○	○		

○		検査整備実務	指定整備工場の設備、組織、業務等の内容について学習し、認証工場との違いを明確に理解することにより、指定整備事業の役割と社会的責任、継続検査の実際の流れについて理解する。	3 前	30	3			○	○		○		
○		安全管理	作業現場での安全管理について体系的に解説を行い、作業場内での事故を未然に防ぐための知識の修得をする。	4 前	30	3	○			○		○		
○		シャシ点検故障探求実務Ⅱ	エアコンの作動原理から各部の構造、点検方法を熟知するとともに、オートエアコンに使用される電子制御システムに対する故障診断手法を修得する。	4 前	40	4			○	○		○		
	○	体験実習	実際に、現場作業を実体験することにより、効率的な作業や故障に対する対処方法について身に付ける。また、工場での作業管理や安全管理について現実と理論を関係づけることを目的とする。	4 前	250	25			○			○	○	
	○	評価実習	体験実習で、学んできたことを踏まえ、整備点検作業の中でさらに検証を加えることにより、更なる技術の向上を目指す。また、工場経営の中における管理運営方法について確認を行う。	4 前後	870	87			○	○		○		
合計			70 科目	4952 単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須及び選択する学科科目、実習科目の出席率、平常評価、通常試験、期末試験、又は口述試験及び論文、レポートの総合評価をもって決定する。出席率は各科目時間の90%以上であり、成績評価「可」以上で履修を認定する。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	23 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																									
専門学校 日本自動車大学校		平成1年3月30日		矢部 明		〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																									
学校法人 日栄学園		平成1年3月30日		理事長 矢部 明		〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																									
分野	認定課程名		認定学科名		専門士	高度専門士																																									
工業	自動車産業専門課程		自動車研究科 (マネージメントコース)		—	平成18年文部科学省 告示第88号																																									
学科の目的																																															
教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備及び産業について専門学校教育法を行い、その高等な理論と実践的な応用を教授ならびに研究し、もって交通産業の健全な発展を帰することを目的とする。																																															
認定年月日																																															
平成29年 2月 28日																																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数		講義	演習	実習	実験																																								
4	年	昼間	4952	1592		3360																																									
単位時間																																															
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数																																									
160 人		207人		9人		51 人																																									
兼任教員数		総教員数																																													
8 人		59 人																																													
学期制度		■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科目、実習科目の履修成績を認定するための 各科目別に評価を行う。 優(100～90点) 良(89～70点) 可(69～60点) 不可(59点以下)																																									
長期休み		■夏 季: 8月1日～8月31日 ■冬 季: 12月23日～1月7日 ■春 季: 3月25日～4月4日		卒業・進級 条件		学科目及び実習科目のそれぞれの出席率、通常試験及び期末 試験又は口述試験、論文、レポートの総合評価をもって決定す る。出席率は各学科・実習時間の90%以上でなければならない。																																									
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席する際の電話連絡、出欠カード提出の指導、無断欠席の 場合は、担任から電話による欠席理由の確認。状況に応じ個 人面談及び家庭訪問により保護者との三者面談等を実施		課外活動		■課外活動の種類 人とするまのテクノロジー展、設計製造ソリューション展、 モーターショー、オートサロン、軽ダート大会、体育祭、国内 研修旅行、海外研修旅行、献血など																																									
就職等の 状況		■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動 車整備工場、損害保険会社他 ■就職指導内容 キャリア支援室を設置し学生への就職先企業の紹介及び各 種相談に対応している。また、面接指導並びに内定後のフォ ローを行っている。 ■卒業生数 58 人 ■就職希望者数 58 人 ■就職者数 58 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等)		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>二級ガソリン自動車整備士</td><td>②</td><td>58人</td><td>58人</td></tr><tr><td>二級ゼゼル自動車整備士</td><td>②</td><td>58人</td><td>58人</td></tr><tr><td>損害保険募集人資格一般試験</td><td>③</td><td>40人</td><td>36人</td></tr><tr><td>小型中古自動車査定士</td><td>③</td><td>35人</td><td>32人</td></tr><tr><td>第二種電気工事士</td><td>③</td><td>52人</td><td>16人</td></tr><tr><td>職業訓練指導員</td><td>③</td><td>55人</td><td>28人</td></tr><tr><td>日商簿記検定三級</td><td>③</td><td>7人</td><td>3人</td></tr><tr><td>運行管理者(貨物)</td><td>②</td><td>7人</td><td>5人</td></tr><tr><td>三級販売士</td><td>③</td><td>7人</td><td>3人</td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第15回全日本学生フォーミュラ大会 総合5位(ICV総合4 位)		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	58人	58人	二級ゼゼル自動車整備士	②	58人	58人	損害保険募集人資格一般試験	③	40人	36人	小型中古自動車査定士	③	35人	32人	第二種電気工事士	③	52人	16人	職業訓練指導員	③	55人	28人	日商簿記検定三級	③	7人	3人	運行管理者(貨物)	②	7人	5人	三級販売士	③	7人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																												
二級ガソリン自動車整備士	②	58人	58人																																												
二級ゼゼル自動車整備士	②	58人	58人																																												
損害保険募集人資格一般試験	③	40人	36人																																												
小型中古自動車査定士	③	35人	32人																																												
第二種電気工事士	③	52人	16人																																												
職業訓練指導員	③	55人	28人																																												
日商簿記検定三級	③	7人	3人																																												
運行管理者(貨物)	②	7人	5人																																												
三級販売士	③	7人	3人																																												
中途退学 の現状		■中途退学者 9名 4.07% 平成29年4月1日時点において、在学者 221名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 212名 (平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 目的意識の欠如、経済的理由、体調不良など ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施 することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を開催している。																																													
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) 1年次成績優秀者に対し、2年次の授業料を減免する特待生制度を設置 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																													
第三者による 学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																													
当該学科の ホームページ URL		URL https://www.nats.ac.jp																																													

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他の」欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩に技術が進歩する自動車産業界において、その技術的進歩に追随する、或いは先導的な指導を学生達に行うことは、実践教育を行う専門課程の責務であり、本校の当課程においては企業と連携し、教育カリキュラムの編成および授業内容の改善などの意見を交換し、フィードバックを加え続ける事により、常に企業ニーズに沿った授業内容の構築を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業や業界団体等と連携した教育課程編成委員会を設置し、委員会からの意見、提言等を活用または参考にし、学校長並びに各科の担当教員らで構成されるカリキュラム編成委員会により教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢部 明	日本自動車大学校 学校長	2018年4月1日～2020年3月31日	
林 英伸	日本自動車大学校 学校長代理	2018年4月1日～2020年3月31日	
宮本 賢次	株式会社千葉マツダ 管理本部総務グループ課長	2018年4月1日～2020年3月31日	③
三平 真司	有限会社三平商会 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
矢城 勝彦	千葉県自動車車体整備組合 副理事長	2018年4月1日～2020年3月31日	①
岩立 一郎	株式会社岩立モータース羽鳥 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
高橋 正裕	JICA技術顧問	2018年4月1日～2020年3月31日	②
早川 靖洋	日本自動車大学校 教育部 教頭	2018年4月1日～2020年3月31日	
矢部 光範	日本自動車大学校 NEMO推進事業部 部長	2018年4月1日～2020年3月31日	
鵜澤 滋人	日本自動車大学校 事務局長代理	2018年3月1日～2020年2月29日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催 3月中旬 8月上旬

(開催日時)

第1回 平成30年3月16日 13:00～14:00

第2回 平成30年8月10日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会からの意見、提言を元に最新電子制御技術搭載のガソリンエンジン車両を用い故障診断技術の向上を図った。また、ディーゼルエンジン搭載車両を用い、クリーンディーゼルエンジンの制御技術の修得、排気ガスの浄化方法の修得、現車確認などの内容を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

販売直後の車両なども取り扱う機会が多い一般企業との連携を行い、実習、実技、演習などを行う事により、先進技術の早い修得や今後導入される可能性がある技術などについても知見を得させ、より一層即戦力たる人材育成に取り組むことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携した企業と事前に実習内容などを協議し、授業を行う。また授業終了後に企業の担当講師と連携し学生の修得状況を調査すると共に、学修成果の評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ガソリン自動車実習	電子制御装置の概要習得及びスキャンツール活用による故障診断の概要習得	株式会社千葉マツダ
ジーゼル自動車実習	ジーゼルエンジンの作動、燃料装置、電子制御装置等の構造及び作動を理解する。	いすゞ自動車首都圏株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員の専攻分野に対する実務的、技術的な研鑽は、実践教育を担う上で欠かせない要素である。よって提携先企業または外部団体などを通じ、常に最新の技術に触れ教員の技術的向上を図る研修を計画的に実施する。一方、技術面のみならずそれらを伝える教育技法の修得も教員としては必須であり、更に近年の青少年の気質や行動様式を理解した上での指導力の向上も求められる。よってこれらの研修の機会も併せて構築し、教員の資質の向上に努めることを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業による新型環境ディーゼル・エンジンの技術講習会に参加させて頂き教職員を派遣、同内容を他の職員にもフィードバック講習を行った。

②指導力の修得・向上のための研修等

提携先大学との連携により「カウンセリングの基礎と手法」と題した教職員を対象とした講座を開催し、受講した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業及び各自動車メーカー主催の最新技術に関する技術研修会。また、外部団体主催の技術研修会に教員を派遣する。その後他の教員にフィードバックを行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

千葉県専修学校各種学校協会主催の新人教員研修会、中堅教員研修会に教職員を派遣する。その後他の教員へのフィードバックを行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

企業や卒業生、地域住民等が参画した学校関係者評価委員会を設置し、学校評価ガイドラインに沿って行う自己評価をベースに、教育活動を始め学校運営に関する取り組みや改善方策を評価検証し、教育活動全般の質的向上を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念、育成人材像の明確化と周知、業界のニーズや将来構想への取組
(2)学校運営	目的、運営方針、コンプライアンスに則った事業計画の策定と実行
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成と実行、適正な人員配置と成績評価
(4)学修成果	資格取得率、就職率、退学率等の評価
(5)学生支援	就職や進路、経済環境や健康管理を行う組織体系
(6)教育環境	施設・設備の保守点検並びに更新状況や防災に関する体制について
(7)学生の受入れ募集	定員の状況と入試体系の明確化、学納金額の適性について
(8)財務	財政基盤や予算、収支計画、監査体制の適性について
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守や自己評価の実施等
(10)社会貢献・地域貢献	施設を活用した地域貢献や人材を活用した講座などの貢献について
(11)国際交流	留学生の受入体制や学習成果の国内外への貢献について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会開催後、その意見を元に後援会企業等と連携し、最新技術を修得する機会を設けるなど実践的な教育内容の構築に努めた。また、地域社会との連携を深めより学校運営を強固な物とするため地域への奉仕活動にも力を入れた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 浩明	千葉トヨペット株式会社 社員相談室 室長	2018年4月1日～2020年3月31日	関連業界
布留川 厚	横芝敬愛高等学校 校長	2018年4月1日～2020年3月31日	高等学校
竹林 克夫	千葉県関税会連合会 会長	2018年4月1日～2020年3月31日	地域住民
西谷 賢一	有限会社西谷自動車整備工場 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	保護者
成瀬 健吾	自動車整備科 3期卒業生	2018年4月1日～2020年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nats.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携し、教育活動及び学校運営の一層の充実と質的向上を図るため、これらの状況や情報を恒常的に提供、公開していく事を基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページによる校訓、教育方針(到達目標)等の公表
(2) 各学科等の教育	各学科の授業科目、概要、時間数などのホームページ、パンフレットによる公表
(3) 教職員	教職員の人数等をHPにて公表
(4) キャリア教育・実践的職業教育	取得可能資格をホームページに記載
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事や課外授業の取り組み等を、ホームページに記載
(6) 学生の生活支援	ホームページ、募集要項による奨学金の公表及び学生寮などの斡旋
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ、募集要項による納付金及び奨学金制度の明確な記載と
(8) 学校の財務	ホームページによる財務諸表の公表
(9) 学校評価	ホームページによる自己点検評価に基づく学校関係者評価の公表
(10) 国際連携の状況	JICAとの連携による途上国民の技術教育や協力隊員の養成支援
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.nats.ac.jp>

授業科目等の概要

(自動車産業専門課程自動車研究科 マネージメント・コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車工学	自動車の各装置の概要、機械要素、熱力学など自動車に係わる基礎を広範囲に学ぶ入門編	1前	24		○			○		○		
○			自動車材料・燃料・油脂	自動車に使用される材料・燃料・油脂類の特性を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			自動車整備・測定機器	整備作業機器、測定機器の構造取扱を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン1	ガソリンエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1前	84		○			○		○		
○			自動車シャシ1	動力伝達、懸架、舵取り、制動、走行の各装置ごとの種類・構造・特性、点検整備方法を学ぶ	1前	84		○			○		○		
○			自動車製図	製図の基礎知識、読図、作図	1前	20		○			○		○		
○			工作・機械実習	手仕上げ工作、機械工作	1前	44				○	○		○		
○			測定実習	基本測定作業	1前	44				○	○		○		
○			ガソリン自動車実習1	ガソリンエンジン（四輪、二輪）分解・構造確認、シャシ（サスペンション、ブレーキ）の分解・構造確認及び点検整備法、電子制御装置概要確認、故障診断基礎	1前	156				○	○		○		○
○			自動車シャシ実習	動力伝達（クラッチ、ドライブシャフト、ディファレンシャル等）の分解・構造確認及び点検方法	1前	104				○	○		○		
○			一般教養	社会人として必要な一般常識	1・2通	40		○			○		○	○	
○			危険物取扱実務	可燃性危険物の性質及び正しい取扱方法	1前	20		○			○		○		

○		有機溶剤取扱 実務	有機溶剤の正しい取扱方法	1 前	16		○			○				外部	
○		ビジネス能力	仕事の基本とビジネスマナーの習得	1 前	40		○			○		○			
○		自動車電気電 子	自動車電子部品の構造・理論	1 後	40		○			○		○			
○		自動車電装品 1	自動車に使用される電気装置（バッテリー、 オルタネータ、スタータ、点火装置など） の構造・特性、点検整備方法について学ぶ	1 後	60		○			○		○			
○		ジーゼルエン ジン1	ジーゼルエンジンの種類、構造、付属装置 の特性、点検整備方法を学ぶ。	1 後	60		○			○		○			
○		自動車力学・ 数学1	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	1 後	30		○			○		○			
○		自動車関係法 規	自動車にかかわる法律を理解する	1 後	26		○			○		○			
○		自動車検査機 器	自動車検査作業に用いられる検査機器の種 類や構造を学ぶ	1 後	20		○			○		○			
○		ジーゼル自動 車実習1	ジーゼルエンジン搭載車両（小型）のエン ジン、シャシのオーバーホール作業、電子 制御装置の概要確認	1 後	116					○	○		○		○
○		点検検査故障 探求実習1	法定点検（12ヶ月）、検査作業の実施	1 後	212					○	○		○		
○		ガソリンエン ジン2	ガソリンエンジンの構造、電子制御装置の 構造、制御方法、故障探求方法を学ぶ	2 前	46		○			○		○			
○		自動車電装品 2	自動車に使用される電気電子装置の構造・ 機能、車内ネットワークの構造機能、外部 診断器の特性について学ぶ	2 前	40		○			○		○			
○		ジーゼルエン ジン2	ジーゼルエンジンの各装置の構造・特性、 電子制御式高圧燃料噴射システムの構造・ 特性を学ぶ	2 前	40		○			○		○			
○		二輪自動車	二輪自動車の構造、整備、故障探求	2 前	40		○			○		○			
○		自動車と環境 問題	地球環境問題から自動車の公害対策を学ぶ	2 前	20		○			○		○			

○		自動車検査	自動車検査作業の一連の流れや書類作成方法を学ぶ	2 前	26		○			○		○							
○		損害保険実務	損害保険の役割及び自動車事故における責任と賠償の役割について学ぶ	2 前	20		○			○		○							
○		ガソリン自動車実習2	電子制御システムの研究、オートマティクトランスミッション、二輪車エンジン・シャシのオーバーホール作業	2 前	216					○	○		○						
○		電装品実習	HVの高圧回路取扱い及び点検整備方法を学ぶ	2 前	80					○	○		○						
○		専攻専科実習	ガソリンエンジンの性能向上、板金塗装、ウィンドウリペア、ボディ塗膜研磨などから選択でその手法を学ぶ	2 前	88					○	○		○						
○		自動車シャシ2	オートマティクトランスミッション、CVT、各電子制御装置（サスペンション、ブレーキ、ステアリング装置）などの構造・特性を学ぶ	2 後	46		○			○		○							
○		自動車力学・数学2	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	2 後	10		○			○		○							
○		点検検査故障探求実習2	法定点検（24ヶ月）、検査作業の実施	2 後	204					○	○		○						
○		工場現場実習	各整備工場での実務を学ぶ	2 後	40					○	△	○		○	△				
○		ジーゼル自動車実習2	ジーゼルエンジン搭載車（大型）の取扱い、電制御燃料噴射システムの構造確認	2 後	216					○	○		○						
○		自動車工学	自動車について、2年次までに学んだ内容に論理的な上積みを行いながら自動車整備技術に携わる新機構について、構造、作動及び整備作業方法などの知識を習得する。	3 前	30	3	○			○		○							
○		内燃機関工学	自動車用エンジンに使用される内燃機関に対し、その熱力学的な特徴からエンジンの出力・効率などの問題点について把握、更に新技術に対する知識を深める。	3 前	30	3	○			○		○							
	○	シャシ整備工学	自動車シャシ関連について、2年次までに学んだ内容の論理的な上積みを行いながら、各種制御装置の故障診断の進め方や振動・騒音に関する診断能力の基礎知識を修得する。	3 前	30	3	○			○		○							
	○	整備診断	整備作業に伴う、問診などに必要な基本知識を学び、さらに応酬話法などの対応への技術を身に付ける。	3 前	30	3	○			○		○							

○		新世代自動車システム工学	ハイブリッド車や新世代の自動車として期待される電気自動車の構造・機能や点検整備・故障診断手法を系統的に学び、新世代の自動車技術に対応できる知識を修得する。	3 後	30	3	○			○		○		
	○	環境経済学	環境保全の仕組みを理解することにより、整備士として実社会での作業環境等の改善に取り組む知識を身に付け、さらに社会人としての教養を身に付け、地球環境に対する問題を正しく理解する。	3 前	30	3	○			○		○		
	○	自動車検査	自動車の整備に関わる確認のための、検査方法等についての知識を身に付ける。	3 前	10	1	○			○		○		
	○	自動車関連法規	道路運送車両法などの自動車関連法規について、2年次までに学んだ知識をもとに、さらに理解を深める。	3 前	20	2	○			○		○		
○		経営戦略	企業が永遠に成長し、発展していくためには、どのような基礎の上に組織が作られ、管理していくかなどを理解する。また、企業と連携し、販売や営業活動に関する実務や知識を修得する。また、新型車の構造や作動、整備方法なども修得する。	3 ・ 4 通	40	4	○			○			○	
○		商業ビジネス	日常的に使用する印鑑や領収書の常識や意味合い、手形・小切手の仕組みなど、実社会に出てから直ぐにでも必要と思われる実務や知識を修得する。	3 前	20	2	○			○		○		
○		教育学概論	教育とはなにか、専門学校とはいかなる学校であるのか。その教育理念や方法論を理解することにより、将来の企業内育成担当者としての資質・素養を醸成させる。	3 前	20	2	○			○		○		
○		自動車損害保険	交通事故を起こした損害車両の損害調査の手法を学び、適切な事故車見積もりの知識や技術を修得する。	3 後	30	3	○			○		○		
○		職業訓練指導員	企業内訓練等に必要の実務知識を修得するとともに、その教科指導方法について理解する。さらにこの資格を取得することにより、個人の付加価値の向上及び充実を図る。	3 前	30	3	○			○		○		
○		ソーシャル検定 上級	ソーシャル検定中級の知識をもとに、更に社会人としての知識と行動の必要性について深く理解し、実際に活用できるように、意識を高めることを目標とする。	3 前	40	4	○			○		○		
○		技術英語	自動車整備において使用される部品名称、メカニカル用語等に数多くあるカタカナ日本語英語の正しい英語表現法を学び、外国車の整備マニュアル等の内容が概ね理解できるようにする。	3 後	30	3	○			○		○		
	○	工場経営分析	自動車関連産業の中での自動車整備の位置づけや業態及び現状と問題点等を把握し、お客様満足を前提とした整備業のマーケティングの必要性を理解することにより、経営についての基本的考え方を身に付ける。	3 後	60	6	○			○		○		
	○	簿記会計学	企業における金銭の収支や債権債務の発生消滅等を継続的に正確に記録し、報告し、企業の財政状態や経営成績を明らかにするための知識技能を修得する。	3 前	30	3	○			○		○		

[illegible]

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
専門学校 日本自動車大学校	平成1年3月30日	矢部 明	〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
学校法人 日栄学園	平成1年3月30日	理事長 矢部 明	〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																											
工業	自動車産業専門課程	自動車研究科 (3D-CAD設計・製造コース)	—	平成18年文部科学省 告示第88号																																											
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備及び産業について専門学校教育法を行い、その高等な理論と実践的な応用を教授ならびに研究し、もって交通産業の健全な発展を帰することを目的とする。																																														
認定年月日	平成29年 2月 28日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
4 年	昼間	4952	1622		3330																																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
160 人	207人	9人	51 人	8 人	59 人																																										
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科目、実習科目の履修成績を認定するための 各科目別に評価を行う。 優(100～90点) 良(89～70点) 可(69～60点) 不可(59点以下)																																											
長期休み	■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月23日～1月7日 ■春 季:3月25日～4月4日		卒業・進級 条件	学科目及び実習科目のそれぞれの出席率、通常試験及び期末 試験又は口述試験、論文、レポートの総合評価をもって決定す る。出席率は各学科・実習時間の90%以上でなければならない。																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席する際の電話連絡、出欠カード提出の指導、無断欠席の 場合は、担任から電話による欠席理由の確認。状況に応じ個 人面談及び家庭訪問により保護者との三者面談等を実施		課外活動	■課外活動の種類 人とするまのテクノロジー展、設計製造ソリューション展、 モーターショー、オートサロン、軽ダート大会、体育祭、国内 研修旅行、海外研修旅行、献血など																																											
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動 車整備工場、損害保険会社他 ■就職指導内容 キャリア支援室を設置し学生への就職先企業の紹介及び各 種相談に対応している。また、面接指導並びに内定後のフォ ローを行っている。 ■卒業生数 54 人 ■就職希望者数 53 人 ■就職者数 53 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 98.15 % ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等)	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td><td>②</td><td>58人</td><td>58人</td></tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td><td>②</td><td>58人</td><td>58人</td></tr> <tr> <td>損害保険募集人資格一般試験</td><td>③</td><td>40人</td><td>36人</td></tr> <tr> <td>小型中古自動車査定士</td><td>③</td><td>35人</td><td>32人</td></tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td><td>③</td><td>52人</td><td>16人</td></tr> <tr> <td>職業訓練指導員</td><td>③</td><td>55人</td><td>28人</td></tr> <tr> <td>日商簿記検定三級</td><td>③</td><td>7人</td><td>3人</td></tr> <tr> <td>運行管理者(貨物)</td><td>③</td><td>7人</td><td>5人</td></tr> <tr> <td>三級販売士</td><td>③</td><td>7人</td><td>3人</td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当す るか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第15回全日本学生フォーミュラ大会 総合5位(ICV総合4 位)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	58人	58人	二級ジーゼル自動車整備士	②	58人	58人	損害保険募集人資格一般試験	③	40人	36人	小型中古自動車査定士	③	35人	32人	第二種電気工事士	③	52人	16人	職業訓練指導員	③	55人	28人	日商簿記検定三級	③	7人	3人	運行管理者(貨物)	③	7人	5人	三級販売士	③	7人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																												
二級ガソリン自動車整備士	②	58人	58人																																												
二級ジーゼル自動車整備士	②	58人	58人																																												
損害保険募集人資格一般試験	③	40人	36人																																												
小型中古自動車査定士	③	35人	32人																																												
第二種電気工事士	③	52人	16人																																												
職業訓練指導員	③	55人	28人																																												
日商簿記検定三級	③	7人	3人																																												
運行管理者(貨物)	③	7人	5人																																												
三級販売士	③	7人	3人																																												
中途退学 の現状	■中途退学者 9名 4.07% 平成29年4月1日時点において、在学者 221名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 212名 (平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 目的意識の欠如、経済的理由、体調不良など ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施 することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を開催している。																																														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 1年次成績優秀者に対し、2年次の授業料を減免する特待生制度を設置 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 有・無 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																														
当該学科の ホームページ URL	URL https://www.nats.ac.jp																																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者や、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩に技術が進歩する自動車産業界において、その技術的進歩に追随する、或いは先導的な指導を学生達に行うことは、実践教育を行う専門課程の責務であり、本校の当課程においては企業と連携し、教育カリキュラムの編成および授業内容の改善などの意見を交換し、フィードバックを加え続ける事により、常に企業ニーズに沿った授業内容の構築を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業や業界団体等と連携した教育課程編成委員会を設置し、委員会からの意見、提言等を活用または参考にし、学校長並びに各科の担当教員らで構成されるカリキュラム編成委員会により教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢部 明	日本自動車大学校 学校長	2018年4月1日～2020年3月31日	
林 英伸	日本自動車大学校 学校長代理	2018年4月1日～2020年3月31日	
宮本 賢次	株式会社千葉マツダ 管理本部総務グループ課長	2018年4月1日～2020年3月31日	③
三平 真司	有限会社三平商会 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
矢城 勝彦	千葉県自動車車体整備組合 副理事長	2018年4月1日～2020年3月31日	①
岩立 一郎	株式会社岩立モータース羽鳥 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
高橋 正裕	JICA技術顧問	2018年4月1日～2020年3月31日	②
早川 靖洋	日本自動車大学校 教育部 教頭	2018年4月1日～2020年3月31日	
矢部 光範	日本自動車大学校 NEMO推進事業部 部長	2018年4月1日～2020年3月31日	
鵜澤 滋人	日本自動車大学校 事務局長代理	2018年3月1日～2020年2月29日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催 3月中旬 8月上旬

(開催日時)

第1回 平成30年3月16日 13:00～14:00

第2回 平成30年8月10日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会からの意見、提言を元に最新電子制御技術搭載のガソリンエンジン車両を用い故障診断技術の向上を図った。また、ディーゼルエンジン搭載車両を用い、クリーンディーゼルエンジンの制御技術の修得、排気ガスの浄化方法の修得、現車確認などの内容を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

販売直後の車両なども取り扱う機会が多い一般企業との連携を行い、実習、実技、演習などを行う事により、先進技術の早い修得や今後導入される可能性がある技術などについても知見を得させ、より一層即戦力たる人材育成に取り組むことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

連携した企業と事前に実習内容などを協議し、授業を行う。また授業終了後に企業の担当講師と連携し学生の修得状況を調査すると共に、学修成果の評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ガソリン自動車実習	電子制御装置の概要習得及びスキャンツール活用による故障診断の概要習得	株式会社千葉マツダ
ジーゼル自動車実習	ジーゼルエンジンの作動、燃料装置、電子制御装置等の構造及び作動を理解する。	いすゞ自動車首都圏株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員の専攻分野に対する実務的、技術的な研鑽は、実践教育を担う上で欠かせない要素である。よって提携先企業または外部団体などを通じ、常に最新の技術に触れ教員の技術的向上を図る研修を計画的に実施する。一方、技術面のみならずそれらを伝える教育技法の修得も教員としては必須であり、更に近年の青少年の気質や行動様式を理解した上での指導力の向上も求められる。よってこれらの研修の機会も併せて構築し、教員の資質の向上に努めることを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業による新型環境ディーゼル・エンジンの技術講習会に参加させて頂き教職員を派遣、同内容を他の職員にもフィードバック講習を行った。

②指導力の修得・向上のための研修等

提携先大学との連携により「カウンセリングの基礎と手法」と題した教職員を対象とした講座を開催し、受講した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業及び各自動車メーカー主催の最新技術に関する技術研修会。また、外部団体主催の技術研修会に教員を派遣する。その後他の教員にフィードバックを行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

千葉県専修学校各種学校協会主催の新人教員研修会、中堅教員研修会に教職員を派遣する。その後他の教員へのフィードバックを行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業や卒業生、地域住民等が参画した学校関係者評価委員会を設置し、学校評価ガイドラインに沿って行う自己評価をベースに、教育活動を始め学校運営に関する取り組みや改善方策を評価検証し、教育活動全般の質的向上を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、育成人材像の明確化と周知、業界のニーズや将来構想への取組
(2) 学校運営	目的、運営方針、コンプライアンスに則った事業計画の策定と実行
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成と実行、適正な人員配置と成績評価
(4) 学修成果	資格取得率、就職率、退学率等の評価
(5) 学生支援	就職や進路、経済環境や健康管理を行う組織体系
(6) 教育環境	施設・設備の保守点検並びに更新状況や防災に関する体制について
(7) 学生の受入れ募集	定員の状況と入試体系の明確化、学納金額の適性について
(8) 財務	財政基盤や予算、収支計画、監査体制の適性について
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守や自己評価の実施等
(10) 社会貢献・地域貢献	施設を活用した地域貢献や人材を活用した講座などの貢献について
(11) 国際交流	留学生の受入体制や学習成果の国内外への貢献について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会開催後、その意見を元に後援会企業等と連携し、最新技術を修得する機会を設けるなど実践的な教育内容の構築に努めた。また、地域社会との連携を深めより学校運営を強固な物とするため地域への奉仕活動にも力を入れた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 浩明	千葉トヨペット株式会社 社員相談室 室長	2018年4月1日～2020年3月31日	関連業界
布留川 厚	横芝敬愛高等学校 校長	2018年4月1日～2020年3月31日	高等学校
竹林 克夫	千葉県関税会連合会 会長	2018年4月1日～2020年3月31日	地域住民
西谷 賢一	有限会社西谷自動車整備工場 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	保護者
成瀬 健吾	自動車整備科 3期卒業生	2018年4月1日～2020年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nats.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携し、教育活動及び学校運営の一層の充実と質的向上を図るため、これらの状況や情報を恒常的に提供、公開していく事を基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページによる校訓、教育方針(到達目標)等の公表
(2) 各学科等の教育	各学科の授業科目、概要、時間数などのホームページ、パンフレットによる公表
(3) 教職員	教職員の人数等をHPにて公表
(4) キャリア教育・実践的職業教育	取得可能資格をホームページに記載
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事や課外授業の取り組み等を、ホームページに記載
(6) 学生の生活支援	ホームページ、募集要項による奨学金の公表及び学生寮などの斡旋
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ、募集要項による納付金及び奨学金制度の明確な記載と
(8) 学校の財務	ホームページによる財務諸表の公表
(9) 学校評価	ホームページによる自己点検評価に基づく学校関係者評価の公表
(10) 国際連携の状況	JICAとの連携による途上国民の技術教育や協力隊員の養成支援
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.nats.ac.jp>

授業科目等の概要

(自動車産業専門課程自動車研究科 3D-CAD設計・製造コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車工学	自動車の各装置の概要、機械要素、熱力学など自動車に係わる基礎を広範囲に学ぶ入門編	1前	24		○			○		○		
○			自動車材料・燃料・油脂	自動車に使用される材料・燃料・油脂類の特性を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			自動車整備・測定機器	整備作業機器、測定機器の構造取扱を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン1	ガソリンエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1前	84		○			○		○		
○			自動車シャシ1	動力伝達、懸架、舵取り、制動、走行の各装置ごとの種類・構造・特性、点検整備方法を学ぶ	1前	84		○			○		○		
○			自動車製図	製図の基礎知識、読図、作図	1前	20		○			○		○		
○			工作・機械実習	手仕上げ工作、機械工作	1前	44				○	○		○		
○			測定実習	基本測定作業	1前	44				○	○		○		
○			ガソリン自動車実習1	ガソリンエンジン（四輪、二輪）分解・構造確認、シャシ（サスペンション、ブレーキ）の分解・構造確認及び点検整備法、電子制御装置概要確認、故障診断基礎	1前	156				○	○		○		○
○			自動車シャシ実習	動力伝達（クラッチ、ドライブシャフト、ディファレンシャル等）の分解・構造確認及び点検方法	1前	104				○	○		○		
○			一般教養	社会人として必要な一般常識	1・2通	40		○			○		○	○	

○		危険物取扱実務	可燃性危険物の性質及び正しい取扱方法	1 前	20		○			○		○			
○		有機溶剤取扱実務	有機溶剤の正しい取扱方法	1 前	16		○			○				外部	
○		ビジネス能力	仕事の基本とビジネスマナーの習得	1 前	40		○			○		○			
○		自動車電気電子	自動車電子部品の構造・理論	1 後	40		○			○		○			
○		自動車電装品 1	自動車に使用される電気装置（バッテリー、オルタネータ、スタータ、点火装置など）の構造・特性、点検整備方法について学ぶ	1 後	60		○			○		○			
○		ジーゼルエンジン 1	ジーゼルエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1 後	60		○			○		○			
○		自動車力学・ 数学 1	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	1 後	30		○			○		○			
○		自動車関係法規	自動車にかかわる法律を理解する	1 後	26		○			○		○			
○		自動車検査機器	自動車検査作業に用いられる検査機器の種類や構造を学ぶ	1 後	20		○			○		○			
○		ジーゼル自動車 実習 1	ジーゼルエンジン搭載車両（小型）のエンジン、シャシのオーバーホール作業、電子制御装置の概要確認	1 後	116					○	○		○		○
○		点検検査故障 探求実習 1	法定点検（12ヶ月）、検査作業の実施	1 後	212					○	○		○		
○		ガソリンエンジン 2	ガソリンエンジンの構造、電子制御装置の構造、制御方法、故障探求方法を学ぶ	2 前	46		○			○		○			
○		自動車電装品 2	自動車に使用される電気電子装置の構造・機能、車内ネットワークの構造機能、外部診断器の特性について学ぶ	2 前	40		○			○		○			
○		ジーゼルエンジン 2	ジーゼルエンジンの各装置の構造・特性、電子制御式高圧燃料噴射システムの構造・特性を学ぶ	2 前	40		○			○		○			

○		二輪自動車	二輪自動車の構造、整備、故障探求	2 前	40		○			○		○		
○		自動車と環境 問題	地球環境問題から自動車の公害対策を学ぶ	2 前	20		○			○		○		
○		自動車検査	自動車検査作業の一連の流れや書類作成方法を学ぶ	2 前	26		○			○		○		
○		損害保険実務	損害保険の役割及び自動車事故における責任と賠償の役割について学ぶ	2 前	20		○			○		○		
○		ガソリン自動車 実習 2	電子制御システムの研究、オートマティク トランスミッション、二輪車エンジン・ シャシのオーバーホール作業	2 前	216					○	○		○	
○		電装品実習	HVの高圧回路取扱い及び点検整備方法を 学ぶ	2 前	80					○	○		○	
○		専攻専科実習	ガソリンエンジンの性能向上、板金塗装、 ウィンドウリペア、ボディ塗膜研磨などか ら選択でその手法を学ぶ	2 前	88					○	○		○	
○		自動車シャシ 2	オートマティクトランスミッション、C V T、各電子制御装置（サスペンション、 ブレーキ、ステアリング装置）などの構造・ 特性を学ぶ	2 後	46		○			○			○	
○		自動車力学・ 数学 2	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	2 後	10		○			○			○	
○		点検検査故障 探求実習 2	法定点検（2 4 ヶ月）、検査作業の実施	2 後	204					○	○		○	
○		工場現場実習	各整備工場での実務を学ぶ	2 後	40					○	△	○		○ △
○		ジーゼル自動 車実習 2	ジーゼルエンジン搭載車（大型）の取扱 い、電制御燃料噴射システムの構造確認	2 後	216					○	○		○	
○		自動車工学	自動車について、2 年次までに学んだ内容 に論理的な上積みを行いながら自動車整備 技術に携わる新機構について、構造、作動 及び整備作業方法などの知識を習得する。	3 前	30	3	○			○			○	
	○	材料工学	機械設計に必要不可欠な、材料・構造・加工 上からの強度計算手法を修得する。	3 前	30	3	○			○			○	

	○		製図	寸法公差や加工法、表面荒さや各種製図記号に対する知識の修得と、実際に製作する上で必要な寸法の記入方などについての作図技術の修得	3 後	30	3	○			○		○		
○			内燃機関工学	自動車用エンジンに使用される内燃機関に対し、その熱力学的な特徴からエンジンの出力・効率などの問題点について把握、更に新技術に対する知識を深める。	3 前	30	3	○			○		○		
	○		電子回路	電気回路との関連付けを行い、回路計算を含む電子回路の理解をする。	3 後	30	3	○			○		○		
	○		コンピュータ工学	電子制御式燃料噴射装置などに使われているCAN通信システムについて学び、その点検方法及び故障診断技術を修得する。また、CPUの基本構成やプログラミングについて学ぶ。	3 後	30	3	○			○		○		
○			新世代自動車システム工学	ハイブリッド車や新世代の自動車として期待される電気自動車の構造・機能や点検整備・故障診断手法を系統的に学び、新世代の自動車技術に対応できる知識を修得する。	3 後	30	3	○			○		○		
	○		整備・測定・検査機器	自動車整備に関わる整備測定検査機器について取り扱い方法や活用法、更には管理保管についての知識を修得する。	3 後	30	3	○			○		○		
○			経営戦略	企業が永遠に成長し、発展していくためには、どのような基礎の上に組織が作られ、管理していくかなどを理解する。また、企業と連携し、販売や営業活動に関する実務や知識を修得する。また、新型車の構造や作動、整備方法なども修得する。	3 ・ 4 通	40	4	○			○			○	
○			商業ビジネス	日常的に使用する印鑑や領収書の常識や意味合い、手形・小切手の仕組みなど、実社会に出てから直ぐにでも必要と思われる実務や知識を修得する。	3 前	20	2	○			○		○		
○			教育学概論	教育とはなにか、専門学校とはいかなる学校であるのか。その教育理念や方法論を理解することにより、将来の企業内育成担当者としての資質・素養を醸成させる。	3 前	20	2	○			○		○		
○			自動車損害保険	交通事故を起こした損害車両の損害調査の手法を学び、適切な事故車見積もりの知識や技術を修得する。	3 後	30	3	○			○		○		
○			職業訓練指導員	企業内訓練等に必要の実務知識を修得するとともに、その教科指導方法について理解する。さらにこの資格を取得することにより、個人の付加価値の向上及び充実を図る。	3 前	30	3	○			○		○		
○			ソーシャル検定 上級	ソーシャル検定中級の知識をもとに、更に社会人としての知識と行動の必要性について深く理解し、実際に活用できるように、意識を高めることを目標とする。	3 前	40	4	○			○		○		
○			技術英語	自動車整備において使用される部品名称、メカニカル用語等に数多くあるカタカナ日本語英語の正しい英語表現法を学び、外国車の整備マニュアル等の内容が概ね理解できるようにする。	3 後	30	3	○			○		○		

	○		英会話 I	自動車整備技術者として、外国人ユーザーの受付対応をする機会が多く見受けられる現状を考え、国際語としての英語、特に実際に役立つ生きた英語の能力を身に付ける。	3 前	30	3	○			○		○			
	○		3D-CAD演習Ⅰ	3D-CAD(CATIA)を活用し、ソリッドによる部品の詳細設計手法を修得する。	3 前	30	3		○		○		○			
	○		3D-CAD演習Ⅱ	サーフェスにより部品を構成する手法について、3D-CAD(CATIA)を活用して修得する。	3 前	30	3		○		○		○			
	○		3D-CAD演習Ⅲ	ソリッドやサーフェスで作成した部品のコンポーネント化の手法について修得する。	3 前	30	3		○		○		○			
	○		3D-CAD演習Ⅳ	3次元で作成された部品やアッセンブリから、2次元に図面を作成する手法を修得する。	3 前	30	3		○		○		○			
	○		Design CADⅠ	Design系C A Dの意義と特徴を理解した上で、基本操作やモデル作成の基礎となる曲線、曲面の作成手法を修得すると共に、その曲面の評価手法と評価基準を理解する。	3 後	40	4			○	○		○			
	○		Design CADⅡ	Design系C A DⅠで修得した知識をベースに、様々な曲面の作成手法を具体的な車両モデリングを通じて修得する。更に曲率を維持したまま変形可能なグローバル・シェイプ・モデリング(G S M)機能を使用し、クラスAサーフェスの実現法について理解する。	3 後	40	4			○	○		○			
	○		Design CADⅢ	クレイ・モデルや現物から3 Dスキャナによって取り込んだデータをC A D上で修正し更に高品質な製品の設計に反映する手法であるリバース・エンジニアリングについて理解すると共に、具体的なDesignCAD上の機能であるReshapeの操作法を修得する。	3 後	40	4			○	○		○			
	○		動力性能試験	学科等で学習した各種条件化におけるエンジンの性能を含めた特性について、シャシダイナモメータを用い具体的及び統計的に試験を行い、その条件化における動力性能を正確に理解することにより、エンジン、ドライブトレイン等の性能を高める能力を養う。	3 後	30	3			○	○		○			
	○		SAE・EV・HV研究実務	フォーミュラカー製作を通じてものづくりの企画、設計、製作に関わる総合力を培う。	3 前後	320	32			○	○		○			
○			機械加工・工作実習	C A Dを用いた車両・部品設計を行うにあたり、実際に工作機械等を活用した製作を行い、設計から生産までの連鎖性と生産性を考慮した設計力を養成する。	3 前	30	3			○	○		○			
	○		小型エンジン整備実務	2年次までに学んだことをベースに、ECUの自己診断機能を活用し、オシロスコープ等を使用して系統的に点検確認しながら不具合箇所を限定し、発見していくという論理実践を通して高度な故障診断能力を身に付ける。	3 前	130	13			○	○		○			

○		自動車電装整備実務	交流回路の基本や配線設計における保安知識、電気工事に必要な基本作業技術などを身に付けることにより、電気自動車に使用される制御システムの理解を深める基礎とする。	3前	90	9			○	○		○		
○		検査整備実務	指定整備工場の設備、組織、業務等の内容について学習し、認証工場との違いを明確に理解することにより、指定整備事業の役割と社会的責任、継続検査の実際の流れについて理解する。	3前	30	3			○	○		○		
○		安全管理	作業現場での安全管理について体系的に解説を行い、作業場内での事故を未然に防ぐための知識の修得をする。	4前	30	3	○			○		○		
	○	英会話Ⅱ	3年次に学んだ英会話をベースとして、更にスキルアップを図る。	4前	40	4	○			○		○		
	○	工業英語検定	海外のサービスマニュアルに和訳、部品購入のための英文書類作成などの実務能力を身に付ける。	4前	30	3	○			○		○		
	○	機械工作	様々な手法により加工・生産される部品について、その加工法、工作機械の活用方法など、工作知識の修得を図る。	4後	30	3	○			○		○		
	○	3D-CAD実務Ⅰ	3D-CADを用い、複雑なサーフェスを様々な形状に変形しつつ、デザイン等に活用する技術について修得する。	4前	30	3			○			○		
	○	3D-CAD実務Ⅱ	ソリッドやサーフェスで作成した部品やアセンブリにより組み合わされた構成部品に対し、構造解析や力学的挙動を解析できる能力を養成する。	4前	30	3			○			○		
	○	3D-CAD実務Ⅲ	アセンブリに稼動する為の条件（機構）等を付加し、アセンブリの動作シミュレーションを行い、機構の速度や加速度の測定、部品同士の干渉の有無や距離を調査し、デザイン検討の手法を修得する。	4後	30	3			○			○		
	○	3D-CAD実務Ⅳ	作成する形状に設計意図を盛り込む手法を修得する。	4後	30	3			○			○		
	○	卒業研究	フォーミュラ車両の製作をもとに、学生フォーミュラ大会を目標にするなど、その目的を達成するために自主的な研究手順・方法等を立案、実行することにより企業人として大成するための基本的姿勢を身に付ける。	4前後	730	73			○			○		
○		シャシ点検故障探求実務Ⅱ	エアコンの作動原理から各部の構造、点検方法を熟知するとともに、オートエアコンに使用される電子制御システムに対する故障診断手法を修得する。	4前	40	4			○	○		○		
	○	教育実習	教育学で学んだことをベースに、実際に教育指導案を作成し、学科授業のパートを受け持ち、教育実習を体験することにより、将来の企業内育成担当者あるいはOJT活動の推進者としての素養を培う。	4前	50	5			○	○		○		

○	海外研修	教育方針の一つである「国際性の涵養」の研修授業の一環として、外国の人々の生活や歴史文化を肌で感じとることによって、グローバルな識見を深め国際感覚を養い、人間形成の一助とする。	4 後	120	12				○		○	○		
合計		78 科目	4952 単位時間(単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須及び選択する学科科目、実習科目の出席率、平常評価、通常試験、期末試験、又は口述試験及び論文、レポートの総合評価をもって決定する。出席率は各科目時間の90%以上であり、成績評価「可」以上で履修を認定する。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	23 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																												
専門学校 日本自動車大学校	平成1年3月30日	矢部 明	〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																												
学校法人 日栄学園	平成1年3月30日	理事長 矢部 明	〒287-0217 千葉県成田市桜田296-38 (電話) 0476-73-5507																																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																											
工業	自動車産業専門課程	自動車研究科 (国際エンジニアコース)	—	平成18年文部科学省 告示第88号																																											
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備及び産業について専門学校教育法を行い、その高等な理論と実践的な応用を教授ならびに研究し、もって交通産業の健全な発展を拂うことを目的とする。																																														
認定年月日	平成29年 2月 28日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
4 年	昼間	4952	1572		3380																																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	単位時間																																									
160 人	207人	9人	51 人	8 人	59 人																																										
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科目、実習科目の履修成績を認定するための 各科目別に評価を行う。 優(100～90点) 良(89～70点) 可(69～60点) 不可(59点以下)																																											
長期休み	■夏 季: 8月1日～8月31日 ■冬 季: 12月23日～1月7日 ■春 季: 3月25日～4月4日		卒業・進級 条件	学科目及び実習科目のそれぞれの出席率、通常試験及び期末 試験又は口述試験、論文、レポートの総合評価をもって決定す る。出席率は各学科・実習時間の90%以上でなければならない。																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応		課外活動	■課外活動の種類 人とするまのテクノロジー展、設計製造ソリューション展、 モーターショー、オートサロン、軽ダート大会、体育祭、国内 研修旅行、海外研修旅行、献血など																																											
就職等の 状況	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動車 整備工場、損害保険会社他 ■就職指導内容 キャリア支援室を設置し学生への就職先企業の紹介及び各 種相談に対応している。また、面接指導並びに内定後のフォ ローを行なっている。 ■卒業者数 58 人 ■就職希望者数 58 人 ■就職者数 58 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等)	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>二級ガソリン自動車整備士</td><td>(2)</td><td>58人</td><td>58人</td></tr><tr><td>二級ジーゼル自動車整備士</td><td>(2)</td><td>58人</td><td>58人</td></tr><tr><td>損害保険業人資格一般試験</td><td>(3)</td><td>40人</td><td>36人</td></tr><tr><td>小型中古自動車査定士</td><td>(3)</td><td>35人</td><td>32人</td></tr><tr><td>第二種電気工事士</td><td>(3)</td><td>52人</td><td>16人</td></tr><tr><td>職業訓練指導員</td><td>(3)</td><td>55人</td><td>28人</td></tr><tr><td>日商簿記検定二級</td><td>(3)</td><td>7人</td><td>3人</td></tr><tr><td>運行管理者(貨物)</td><td>(2)</td><td>7人</td><td>5人</td></tr><tr><td>三級販売士</td><td>(3)</td><td>7人</td><td>3人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第15回全日本学生フォーミュラ大会 総合5位(ICV総合4 位)				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	(2)	58人	58人	二級ジーゼル自動車整備士	(2)	58人	58人	損害保険業人資格一般試験	(3)	40人	36人	小型中古自動車査定士	(3)	35人	32人	第二種電気工事士	(3)	52人	16人	職業訓練指導員	(3)	55人	28人	日商簿記検定二級	(3)	7人	3人	運行管理者(貨物)	(2)	7人	5人	三級販売士	(3)	7人	3人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																												
二級ガソリン自動車整備士	(2)	58人	58人																																												
二級ジーゼル自動車整備士	(2)	58人	58人																																												
損害保険業人資格一般試験	(3)	40人	36人																																												
小型中古自動車査定士	(3)	35人	32人																																												
第二種電気工事士	(3)	52人	16人																																												
職業訓練指導員	(3)	55人	28人																																												
日商簿記検定二級	(3)	7人	3人																																												
運行管理者(貨物)	(2)	7人	5人																																												
三級販売士	(3)	7人	3人																																												
中途退学 の現状	■中途退学者 9名 4.07% 平成29年4月1日時点において、在学者 221名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 212名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 目的意識の欠如、経済的理由、体調不良など ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施 することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を開催している。																																														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 無 1年次成績優秀者に対し、2年次の授業料を減免する特待生制度を設置 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 無 給付対象 有 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																														
当該学科の ホームページ URL	URL https://www.nats.ac.jp																																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や通

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日進月歩に技術が進歩する自動車産業界において、その技術的進歩に追随する、或いは先導的な指導を学生達に行うことは、実践教育を行う専門課程の責務であり、本校の当課程においては企業と連携し、教育カリキュラムの編成および授業内容の改善などの意見を交換し、フィードバックを加え続ける事により、常に企業ニーズに沿った授業内容の構築を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業や業界団体等と連携した教育課程編成委員会を設置し、委員会からの意見、提言等を活用または参考にし、学校長並びに各科の担当教員らで構成されるカリキュラム編成委員会により教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢部 明	日本自動車大学校 学校長	2018年4月1日～2020年3月31日	
林 英伸	日本自動車大学校 学校長代理	2018年4月1日～2020年3月31日	
宮本 賢次	株式会社千葉マツダ 管理本部総務グループ課長	2018年4月1日～2020年3月31日	③
三平 真司	有限会社三平商会 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
矢城 勝彦	千葉県自動車車体整備組合 副理事長	2018年4月1日～2020年3月31日	①
岩立 一郎	株式会社岩立モータース羽鳥 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	③
高橋 正裕	JICA技術顧問	2018年4月1日～2020年3月31日	②
早川 靖洋	日本自動車大学校 教育部 教頭	2018年4月1日～2020年3月31日	
矢部 光範	日本自動車大学校 NEMO推進事業部 部長	2018年4月1日～2020年3月31日	
鵜澤 滋人	日本自動車大学校 事務局長代理	2018年3月1日～2020年2月29日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催 3月中旬 8月上旬

(開催日時)

第1回 平成30年3月16日 13:00～14:00

第2回 平成30年8月10日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会からの意見、提言を元に最新電子制御技術搭載のガソリンエンジン車両を用い故障診断技術の向上を図った。また、ディーゼルエンジン搭載車両を用い、クリーンディーゼルエンジンの制御技術の修得、排気ガスの浄化方法の修得、現車確認などの内容を取り入れた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

販売直後の車両なども取り扱う機会が多い一般企業との連携を行い、実習、実技、演習などを行う事により、先進技術の早い修得や今後導入される可能性がある技術などについても知見を得させ、より一層即戦力たる人材育成に取り組むことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携した企業と事前に実習内容などを協議し、授業を行う。また授業終了後に企業の担当講師と連携し学生の修得状況を調査すると共に、学修成果の評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ガソリン自動車実習	電子制御装置の概要習得及びスキャンツール活用による故障診断の概要習得	株式会社千葉マツダ
ジーゼル自動車実習	ジーゼルエンジンの作動、燃料装置、電子制御装置等の構造及び作動を理解する。	いすゞ自動車首都圏株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員の専攻分野に対する実務的、技術的な研鑽は、実践教育を担う上で欠かせない要素である。よって提携先企業または外部団体などを通じ、常に最新の技術に触れ教員の技術的向上を図る研修を計画的に実施する。一方、技術面のみならずそれらを伝える教育技法の修得も教員としては必須であり、更に近年の青少年の気質や行動様式を理解した上での指導力の向上も求められる。よってこれらの研修の機会も併せて構築し、教員の資質の向上に努めることを基本方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業による新型環境ディーゼル・エンジンの技術講習会に参加させて頂き教職員を派遣、同内容を他の職員にもフィードバック講習を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

提携先大学との連携により「カウンセリングの基礎と手法」と題した教職員を対象とした講座を開催し、受講した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

提携先企業及び各自動車メーカー主催の最新技術に関する技術研修会。また、外部団体主催の技術研修会に教員を派遣する。その後他の教員にフィードバックを行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

千葉県専修学校各種学校協会主催の新人教員研修会、中堅教員研修会に教職員を派遣する。その後他の教員へのフィードバックを行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業や卒業生、地域住民等が参画した学校関係者評価委員会を設置し、学校評価ガイドラインに沿って行う自己評価をベースに、教育活動を始め学校運営に関する取り組みや改善方策を評価検証し、教育活動全般の質的向上を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、育成人材像の明確化と周知、業界のニーズや将来構想への取組
(2) 学校運営	目的、運営方針、コンプライアンスに則った事業計画の策定と実行
(3) 教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成と実行、適正な人員配置と成績評価
(4) 学修成果	資格取得率、就職率、退学率等の評価
(5) 学生支援	就職や進路、経済環境や健康管理を行う組織体系
(6) 教育環境	施設・設備の保守点検並びに更新状況や防災に関する体制について
(7) 学生の受入れ募集	定員の状況と入試体系の明確化、学納金額の適性について
(8) 財務	財政基盤や予算、収支計画、監査体制の適性について
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守や自己評価の実施等
(10) 社会貢献・地域貢献	施設を活用した地域貢献や人材を活用した講座などの貢献について
(11) 国際交流	留学生の受入体制や学習成果の国内外への貢献について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会開催後、その意見を元に後援会企業等と連携し、最新技術を修得する機会を設けるなど実践的な教育内容の構築に努めた。また、地域社会との連携を深めより学校運営を強固な物とするため地域への奉仕活動にも力を入れた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
伊藤 浩明	千葉トヨペット株式会社 社員相談室 室長	2018年4月1日～2020年3月31日	関連業界
布留川 厚	横芝敬愛高等学校 校長	2018年4月1日～2020年3月31日	高等学校
竹林 克夫	千葉県関税会連合会 会長	2018年4月1日～2020年3月31日	地域住民
西谷 賢一	有限会社西谷自動車整備工場 代表取締役	2018年4月1日～2020年3月31日	保護者
成瀬 健吾	自動車整備科 3期卒業生	2018年4月1日～2020年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.nats.ac.jp>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携し、教育活動及び学校運営の一層の充実と質的向上を図るため、これらの状況や情報を恒常的に提供、公開していく事を基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページによる校訓、教育方針(到達目標)等の公表
(2) 各学科等の教育	各学科の授業科目、概要、時間数などのホームページ、パンフレットによる公表
(3) 教職員	教職員の人数等をHPにて公表
(4) キャリア教育・実践的職業教育	取得可能資格をホームページに記載
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事や課外授業の取り組み等を、ホームページに記載
(6) 学生の生活支援	ホームページ、募集要項による奨学金の公表及び学生寮などの斡旋
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ、募集要項による納付金及び奨学金制度の明確な記載と
(8) 学校の財務	ホームページによる財務諸表の公表
(9) 学校評価	ホームページによる自己点検評価に基づく学校関係者評価の公表
(10) 国際連携の状況	JICAとの連携による途上国民の技術教育や協力隊員の養成支援
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.nats.ac.jp>

授業科目等の概要

(自動車産業専門課程自動車研究科 国際エンジニア・コース) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基礎自動車工学	自動車の各装置の概要、機械要素、熱力学など自動車に係わる基礎を広範囲に学ぶ入門編	1前	24		○			○		○		
○			自動車材料・燃料・油脂	自動車に使用される材料・燃料・油脂類の特性を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			自動車整備・測定機器	整備作業機器、測定機器の構造取扱を学ぶ	1前	20		○			○		○		
○			ガソリン・エンジン1	ガソリンエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1前	84		○			○		○		
○			自動車シャシ1	動力伝達、懸架、舵取り、制動、走行の各装置ごとの種類・構造・特性、点検整備方法を学ぶ	1前	84		○			○		○		
○			自動車製図	製図の基礎知識、読図、作図	1前	20		○			○		○		
○			工作・機械実習	手仕上げ工作、機械工作	1前	44				○	○		○		
○			測定実習	基本測定作業	1前	44				○	○		○		
○			ガソリン自動車実習1	ガソリンエンジン（四輪、二輪）分解・構造確認、シャシ（サスペンション、ブレーキ）の分解・構造確認及び点検整備法、電子制御装置概要確認、故障診断基礎	1前	156				○	○		○		○
○			自動車シャシ実習	動力伝達（クラッチ、ドライブシャフト、ディファレンシャル等）の分解・構造確認及び点検方法	1前	104				○	○		○		
○			一般教養	社会人として必要な一般常識	1・2通	40		○			○		○	○	

○		危険物取扱実務	可燃性危険物の性質及び正しい取扱方法	1 前	20		○			○		○			
○		有機溶剤取扱実務	有機溶剤の正しい取扱方法	1 前	16		○			○				外部	
○		ビジネス能力	仕事の基本とビジネスマナーの習得	1 前	40		○			○		○			
○		自動車電気電子	自動車電子部品の構造・理論	1 後	40		○			○		○			
○		自動車電装品 1	自動車に使用される電気装置（バッテリー、オルタネータ、スタータ、点火装置など）の構造・特性、点検整備方法について学ぶ	1 後	60		○			○		○			
○		ジーゼルエンジン 1	ジーゼルエンジンの種類、構造、付属装置の特性、点検整備方法を学ぶ。	1 後	60		○			○		○			
○		自動車力学・ 数学 1	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	1 後	30		○			○		○			
○		自動車関係法規	自動車にかかわる法律を理解する	1 後	26		○			○		○			
○		自動車検査機器	自動車検査作業に用いられる検査機器の種類や構造を学ぶ	1 後	20		○			○		○			
○		ジーゼル自動車 実習 1	ジーゼルエンジン搭載車両（小型）のエンジン、シャシのオーバーホール作業、電子制御装置の概要確認	1 後	116					○	○		○		○
○		点検検査故障 探求実習 1	法定点検（12ヶ月）、検査作業の実施	1 後	212					○	○		○		
○		ガソリンエンジン 2	ガソリンエンジンの構造、電子制御装置の構造、制御方法、故障探求方法を学ぶ	2 前	46		○			○		○			
○		自動車電装品 2	自動車に使用される電気電子装置の構造・機能、車内ネットワークの構造機能、外部診断器の特性について学ぶ	2 前	40		○			○		○			
○		ジーゼルエンジン 2	ジーゼルエンジンの各装置の構造・特性、電子制御式高圧燃料噴射システムの構造・特性を学ぶ	2 前	40		○			○		○			

○		二輪自動車	二輪自動車の構造、整備、故障探求	2 前	40		○			○		○		
○		自動車と環境 問題	地球環境問題から自動車の公害対策を学ぶ	2 前	20		○			○		○		
○		自動車検査	自動車検査作業の一連の流れや書類作成方法を学ぶ	2 前	26		○			○		○		
○		損害保険実務	損害保険の役割及び自動車事故における責任と賠償の役割について学ぶ	2 前	20		○			○		○		
○		ガソリン自動車 実習 2	電子制御システムの研究、オートマティク トランスミッション、二輪車エンジン・ シャシのオーバーホール作業	2 前	216					○	○		○	
○		電装品実習	HVの高圧回路取扱い及び点検整備方法を 学ぶ	2 前	80					○	○		○	
○		専攻専科実習	ガソリンエンジンの性能向上、板金塗装、 ウィンドウリペア、ボディ塗膜研磨などか ら選択でその手法を学ぶ	2 前	88					○	○		○	
○		自動車シャシ 2	オートマティクトランスミッション、C V T、各電子制御装置（サスペンション、 ブレーキ、ステアリング装置）などの構造・ 特性を学ぶ	2 後	46		○			○			○	
○		自動車力学・ 数学 2	自動車の性能、特性にかかわる法則計算	2 後	10		○			○			○	
○		点検検査故障 探求実習 2	法定点検（24ヶ月）、検査作業の実施	2 後	204					○	○		○	
○		工場現場実習	各整備工場での実務を学ぶ	2 後	40					○	△	○		○ △
○		ジーゼル自動 車実習 2	ジーゼルエンジン搭載車（大型）の取扱 い、電制御燃料噴射システムの構造確認	2 後	216					○	○		○	
○		自動車工学	自動車について、2年次までに学んだ内容 に論理的な上積みを行いながら自動車整備 技術に携わる新機構について、構造、作動 及び整備作業方法などの知識を習得する。	3 前	30	3	○			○			○	
○		内燃機関工学	自動車用エンジンに使用される内燃機関に 対し、その熱力学的な特徴からエンジンの 出力・効率などの問題点について把握、更に 新技術に対する知識を深める。	3 前	30	3	○			○			○	

○	○	シャシ整備工学	自動車シャシ関連について、2年次までに学んだ内容の論理的な上積みを行いながら、各種制御装置の故障診断の進め方や振動・騒音に関する診断能力の基礎知識を修得する。	3前	30	3	○			○	○		
○	○	整備診断	整備作業に伴う、問診などに必要な基本知識を学び、さらに応酬話法などの応対への技術を身に付ける。	3前	30	3	○			○	○		
○	○	新世代自動車システム工学	ハイブリッド車や新世代の自動車として期待される電気自動車の構造・機能や点検整備・故障診断手法を系統的に学び、新世代の自動車技術に対応できる知識を修得する。	3後	30	3	○			○	○		
○	○	環境経済学	環境保全の仕組みを理解することにより、整備士として実社会での作業環境等の改善に取り組む知識を身に付け、さらに社会人としての教養を身に付け、地球環境に対する問題を正しく理解する。	3前	30	3	○			○	○		
○	○	自動車検査	自動車の整備に関わる確認のための、検査方法等についての知識を身に付ける。	3前	10	1	○			○	○		
○	○	自動車関連法規	道路運送車両法などの自動車関連法規について、2年次までに学んだ知識をもとに、さらに理解を深める。	3前	20	2	○			○	○		
○	○	経営戦略	企業が永遠に成長し、発展していくためには、どのような基礎の上に組織が作られ、管理していくかなどを理解する。また、企業と連携し、販売や営業活動に関する実務や知識を修得する。また、新型車の構造や作動、整備方法なども修得する。	3通	20	2	○			○		○	
○	○	商業ビジネス	日常的に使用する印鑑や領収書の常識や意味合い、手形・小切手の仕組みなど、実社会に出てから直ぐにでも必要と思われる実務や知識を修得する。	3前	20	2	○			○	○		
○	○	教育学概論	教育とはなにか、専門学校とはいかなる学校であるのか。その教育理念や方法論を理解することにより、将来の企業内育成担当者としての資質・素養を醸成させる。	3前	20	2	○			○	○		
○	○	自動車損害保険	交通事故を起こした損害車両の損害調査の手法を学び、適切な事故車見積もりの知識や技術を修得する。	3後	30	3	○			○	○		
○	○	職業訓練指導員	企業内訓練等に必要の実務知識を修得するとともに、その教科指導方法について理解する。さらにこの資格を取得することにより、個人の付加価値の向上及び充実を図る。	3前	30	3	○			○	○		
○	○	ソーシャル検定 上級	ソーシャル検定中級の知識をもとに、更に社会人としての知識と行動の必要性について深く理解し、実際に活用できるように、意識を高めることを目標とする。	3前	40	4	○			○	○		
○	○	技術英語	自動車整備において使用される部品名称、メカニカル用語等に数多くあるカタカナ日本語英語の正しい英語表現法を学び、外国車の整備マニュアル等の内容が概ね理解できるようにする。	3後	30	3	○			○	○		

○	工場経営分析	自動車関連産業の中での自動車整備の位置づけや業態及び現状と問題点を把握し、お客様満足を前提とした整備業のマーケティングの必要性を理解することにより、経営についての基本的考え方を身に付ける。	3 後	60	6	○			○	○				
○	簿記会計学	企業における金銭の収支や債権債務の発生消滅等を継続的に正確に記録し、報告し、企業の財政状態や経営成績を明らかにするための知識技能を修得する。	3 前	30	3	○			○	○				
○	3級簿記	3級簿記は簿記の基礎ともいべき分野であり、経営分析を行うためのベースとなる技術的色彩の濃い学科目である。また、この資格を取得することにより、個人としての付加価値を向上及び充実を図る。	3 後	30	3	○			○	○				
○	英会話 I	自動車整備技術者として、外国人ユーザーの受付応対をする機会が多く見受けられる現状を考え、国際語としての英語、特に実際に役立つ生きた英語の能力を身に付ける。	3 前	30	3	○			○	○				
○	動力性能試験	学科等で学習した各種条件化におけるエンジンの性能を含めた特性について、シャシダイナモメータを用い具体的及び統計的に試験を行い、その条件化における動力性能を正確に理解することにより、エンジン、ドライブトレイン等の性能を高める能力を養う。	3 後	30	3				○	○		○		
○	運行管理者実務	事業用自動車の運転者の乗務割の作成、休憩・睡眠施設の保守管理、運転者の指導・監督・点呼による運転者の疲労・健康状態等の把握や安全運転の指示等、事業用自動車の運行の安全を確保する業務を行う運行管理者として必要な知識を学び資格取得を目指す。	3 後	30	3				○	○		○		
○	SAE・EV・HV研究実務	フォーミュラカー製作を通じてものづくりの企画、設計、製作に関わる総合力を培う。	3 前後	320	32				○	○		○		
○	機械加工・工作実習	CADを用いた車両・部品設計を行うにあたり、実際に工作機械等を活用した製作を行い、設計から生産までの連鎖性と生産性を考慮した設計力を養成する。	3 前	30	3				○	○		○		
○	小型エンジン整備実務	2年次までに学んだことをベースに、ECUの自己診断機能を活用し、オシロスコープ等を使用して系統的に点検確認しながら不具合箇所を限定し、発見していくという論理的実践を通して高度な故障診断能力を身に付ける。	3 前	130	13				○	○		○		
○	大型エンジン整備実務	大型車両のエンジンに使用されている電子ユニットの故障に対応するため、基本的な電気回路の作動や回路の読み方を学習し、故障探求に必要な技術を修得する。	3 後	120	12				○	○		○		
○	自動車電装整備実務	交流回路の基本や配線設計における保安知識、電気工事に必要な基本作業技術などを身に付けることにより、電気自動車に使用される制御システムの理解を深める基礎とする。	3 前	90	9				○	○		○		
○	検査整備実務	指定整備工場の設備、組織、業務等の内容について学習し、認証工場との違いを明確に理解することにより、指定整備事業の役割と社会的責任、継続検査の実際の流れについて理解する。	3 前	30	3				○	○		○		

○		安全管理	作業現場での安全管理について体系的に解説を行い、作業場内での事故を未然に防ぐための知識の修得をする。	4 前	30	3	○			○		○		
	○	英会話Ⅱ	3年次に学んだ英会話をベースとして、更にスキルアップを図る。	4 前	40	4	○			○		○		
	○	実用英会話	英国留学する学生を対象した英会話の授業であり、コンピュータ等も用いて英語による表現力を高めることを目標としている。	4 前	30		○							
	○	工業英語検定	海外のサービスマニュアルに和訳、部品購入のための英文書類作成などの実務能力を身に付ける。	4 前	30	3	○			○		○		
	○	自動車売買実務	商品として、現在流通している車両を取り上げ、その流れや売買の方法を理解し、新車・中古車市場や自動車販売の実務について理解を深くする。	4 前	30	3				○	○		○	
○		シャシ点検故障探求実務Ⅱ	エアコンの作動原理から各部の構造、点検方法を熟知するとともに、オートエアコンに使用される電子制御システムに対する故障診断手法を修得する。	4 前	40	4				○	○		○	
	○	教育実習	教育学で学んだことをベースに、実際に教育指導案を作成し、学科授業のパートを受け持ち、教育実習を体験することにより、将来の企業内育成担当者あるいはOJT活動の推進者としての素養を培う。	4 前	50	5				○	○		○	
	○	海外留学	英国の自動車産業を中心に、海外の文化、習慣、歴史などを学び、国際人としての素養を身につける。	4 後	960	12				○		○	○	
合計			72 科目	4952 単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須及び選択する学科科目、実習科目の出席率、平常評価、通常試験、期末試験、又は口述試験及び論文、レポートの総合評価をもって決定する。出席率は各科目時間の90%以上であり、成績評価「可」以上で履修を認定する。		1学年の学期区分	2 期
		1学期の授業期間	23 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。